

ふれあい名古屋



【特集】福祉クローズアップ

障害者差別解消法が変わります ～事業者による合理的配慮の義務化～

障害への理解を深めるための企業向けセミナーの様子

CONTENTS

社協活動最前線 千種区社会福祉協議会	4
想いをつなぐリレートーク / ながら体操	5
ほっとはあとコーナー	6
● 旬ボラに行く！ 文化祭を新しい気づきの場に！	
● ボランティア・NPOウォッチング NPO 法人ファミリー	
● きらっとボランティア・NPOらいぶ 北保護区保護司会 鬼頭 美恵子さん	
● 地区のオススメのボランティア 昭和区 ゆめ緑道ごきそ	
からだに優しい いきいきレシピ / プレゼントつきクイズ	10
インフォメーション	11
ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介	12

今回は、
令和6年4月に改正される
障害者差別解消法について
特集しました。
関連記事：2・3ページ



特集：福祉クローズアップ



障害者差別解消法が変わります ～事業者による合理的配慮の義務化～

皆さんは、「合理的配慮」という言葉をご存知でしょうか。障害者差別解消法におけるキーワードの一つであり、令和6年4月の法改正によってその位置づけが大きく変わることとなりました。

今回は、法改正のポイントを解説するとともに、障害を理由とする差別の解消に取り組んでいる企業の事例を通して、私たちが共生社会を目指すために障害者差別とどのように向き合うべきかについて考えます。

法改正のポイントについて、弁護士であり、名古屋視覚障害者協会会長でもある田中 伸明さんに解説いただきました。

■今回の法改正の背景や、ポイントについて教えてください。

障害者差別解消法が目指すのは、障害のある人もない人も互いにその人らしさを認め合い、ともに生きる「共生社会」の実現です。法律では、障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止とともに、合理的配慮の提供について定められています。

今回、主な改正点は3つありますが、最も大きなポイントは、これまで努力義務だった「事業者による合理的配慮の提供」が義務化されることです。

■「合理的配慮の提供」とは、どのような考え方ですか。

簡単に言うと、「障害のある人から必要かつ適当な配慮の申し出があったときに、障壁となっているものをできる範囲で変更・調整する」ことです。

例えば、車いすのお客様から飲食店に入店したいという申し出があった場合、車いすのまま着席できるようにお店の椅子を移動させたり、入口に近い席に案内したりすることは合理的配慮といえます。

法改正の主なポイント

- ①国及び地方公共団体の連携協力の責務の追加
- ②事業者による社会的障壁の除去の実施に係る必要かつ合理的な配慮の提供の義務化
- ③障害を理由とする差別を解消するための支援措置の強化

■「事業者」とは、具体的にどのような主体を指すのでしょうか。また、事業者としてどのようなことに気を付ける必要があるのでしょうか。

この法律における「事業者」にはあらゆる主体が含まれます。法律では「同じサービス等を繰り返し意思をもって行う者」と定められており、企業や店舗、NPO 団体だけでなく、町内会やボランティア団体、個人事業主も対象となります。



田中 伸明さん

合理的配慮の提供について、法律上は「申し出があった場合」という限定的な表現となっていますが、障害の種類によっては配慮を申し出ることが困難な場合もあります。その点を念頭に置き、申し出がしやすいように困りごとがないか声をかけたり、障害のある人にとっての障壁の有無をあらかじめ確認したりすることが大切です。

また、人員や設備などの事情で申し出に対応することが難しい場合でも、対応できない理由を具体的に伝えた上で、代替りの手段を提案するなどの工夫が求められます。

■今後、事業者にどのようなことを期待されますか。

障害者差別の解消には、障害当事者との対話が必要不可欠です。この法律に罰則規定がないのは、不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の提供は法律で強制するものではなく、それぞれが考え、対話を重ねてお互いを理解した上でなされるのが望ましいと考えられているためです。

今後、国や地方公共団体において、障害者差別の解消にかかる事例や裁判例についての情報が収集・整理され、国民にも提供されることとなっています。そういった事例も参考にしながら、共生社会の実現に向けた対応について考えるきっかけにしていきたいと思います。

■名古屋市障害者差別相談センターから

名古屋市障害者差別相談センターは、名古屋市が設置している「障害を理由とする差別」に関する相談を受け、当事者同士の建設的な対話をもって解決をしていく機関です。

今回の法改正により、民間事業者の「合理的配慮の提供」が義務化されました。民間事業者からのお問い合わせでは、「どこまでやればいいのか」「お願いされたら無理をしても対応しなければならぬの?」と合理的配慮の提供が何か特別なことのように捉えているように感じます。

私たちは社会生活を円滑に営む上で、他者に対して何らかの配慮をしながら生活しています。お店で物を買うときやサービスを利用するときなど、スタッフの方は、お客様に対してそれぞれ自然に配慮をして接客をしているのではないのでしょうか。障害のある人からの合理的配慮の提供の申し入れは、そんな皆さんが普段からしたり、されたりしていることの延長線上にあるものと考えます。障害のあるなしに限らず、お客様が自分たちのサービスを利用する上で困っていることに目を向けていくことが大切だと思います。

【障害者差別に関するお問い合わせ・ご相談】

名古屋市障害者差別相談センター
TEL：052-856-8181
名古屋市北区清水四丁目17番1号
名古屋市総合社会福祉会館5階

田中さんの解説を踏まえ、合理的配慮の視点をもってサービスの提供に取り組まれている事業者の事例をご紹介します。

すべてのゲストに楽しみを 現場発のスタッフ教育

平成29年の開園以来、老若男女を問わず多くのゲストが訪れるレゴランド・ジャパン・リゾートでは、障害のあるゲストも園内を楽しめるようにするためのスタッフ教育を実施しています。

アトラクション部門では、「身体障害のある家族の付き添いでアトラクションに同乗したい」「このような障害があるが、アトラクションに乗っても大丈夫か」といったことを尋ねられる場面があります。スタッフは、安全面とゲストの楽しみを両



立できるようその場で判断し、希望に添えない場合は代替案を提案することが求められます。

アトラクション運営の担当である山下さんと早田さんは、現場のスタッフから聞き取ったそのような事例や困りごとをもとに、障害のあるゲストへの姿勢や適切な案内方法についてのスタッフ教育のプログラムを考案しました。

「プログラムを実施する前は、障害のあるゲストに対して特別な対応をしなければいけないのではないかと構えてしまうスタッフもいました。その姿勢を変え、合理的配慮を理解するきっかけにできれば」と山下さん。早田さんも、「障害に対する経験や知識の違いから、スタッフによって案内に差が生じてしまうのが課題でした。ゲストとの対話を通して最善の案内ができるよう、現場のスタッフと一緒に考えていきたいです」と話します。

二人の上司の岡村さんは、「プログラムの実施に加え、車いすの方や盲導犬を連れた方の目線で園内の動線や設備を検証するなど、環境づくりにも取り組んでいます。ハード、ソフトの両面の整備を通して、すべてのゲストに園内を楽しんでいただけるようにするとともに、スタッフの障害に対する意識やスキルを底上げしていきたいと考えています」と話してくださいました。



(左から) 岡村さん、早田さん、山下さん

【お問い合わせ】

レゴランド・ジャパン・リゾートへお越しの際に、確認したいことがございましたら
レゴランド・ジャパン・リゾート
コールセンター：0570-05-8605 (9:00～17:00)
までご連絡ください

Vol.55

今回は

千種区社会福祉協議会

千種区社会福祉協議会

ほっとくつろげる共生型サロン「地域の縁側」 ひなたぼっこ

千種区清明山の住宅街にある共生型サロン「ひなたぼっこ」では、午前中は地域の方が三々五々自由に集うサロン、午後は日替わりの講座を週3回開いています。

代表の笹原なよみさんは、学校の先生を退職後、幅広い世代が集えるサロンを作りたいという思いが芽生え、離れの一室からスタートし、開設から10周年を迎える現在は、本宅全体をサロン会場として利用しています。

ひなたぼっこのコンセプトは、気軽に立ち寄れて思い思いに過ごせる「地域の縁側」。マスターが参加者一人一人に淹れるコーヒーの香りが漂い、初めて訪れた人も不思議と落ち着く、居心地のよい空間です。

人の集まりから生まれるものを大事に

運営の工夫についてお伺いしたところ、「サロンを開きたいという方の中には、講師やイベントを用意しなければいけないと悩まれる方も多いです。ひなたぼっこに来ていただければ、考えが変わるのではないかと思います」と。午後に行われる講座のほとんどはボランティアの講師によるもののほか、仲間同士で教え合ったり、講師役を順に回したりしています。参加者の特技をきっかけにイベントが生まれたりすることもあるそうです。

また、講座の後に開かれるお茶会での交流や情報交換も、参加者の楽しみの一つです。参加者同士がつながり、また参加したいと思える場になっています。

笹原さんは、「サロンは協力してくれる方がいないと成り立ちません。場を用意すれば、協力してくれる人が集まる。人の集まりから何かが生まれるのが楽しく、頼りになっています」と話します。

千種区社協の生活支援推進担当の吉本さんは、「週に3回、同じ場所で運営できるサロンはなかなかありません。スタッフの人柄やこの場所の雰囲気、様々

な人を引き寄せているように感じます。サロンの開設を検討されている方に、是非訪れていただきたいサロンです」と話します。

持続可能なサロン運営のために

笹原さんは、自分たちが退いた後もひなたぼっこの活動を次世代につなぐために、令和4年に団体を一般財団法人化しました。日々のサロンや講座の運営も参加者に役割を任せ、主体的な動きを期待しています。

現在必要とされているのは、サロンが個人の努力ではなく組織として成り立ち、運営者が変わっても継続できる仕組みです。「〇〇さんだからできる」ではなく、持続的で自立的なサロンが増えていくことが笹原さんとマスターの願いです。



【お問い合わせ】

地域の縁側ひなたぼっこ

住所：千種区清明山1-3-10

TEL：090-9022-8960

実施日：毎週月・水・金曜 10：00～15：30
(第2水曜と祝日は休み)

想いをつなぐ

リレートーク 55

社会福祉法人小鳩会 小鳩幼稚園

園長 松本 一男さん



小鳩幼稚園は、昭和32年に港区築地口にて無認可保育園として設立されました。その後昭和46年に認可保育園となりました。お散歩やお絵描きなどで気軽に園外保育として名古屋港ガーデンふ頭に出かけます。保護者の方のなかにも船関係や商店街の方もみえます。平成11年に園舎を改築し3・4階に老人デイサービスセンターを併設しました。

小鳩幼稚園では、健康な子どもの育成、おもいやりや自分の気持ちを人に伝えることができるような心を育てる保育に力を入れています。また、わらべ唄や童謡など月の唄として取り上げるなど、音楽やリズムの教育にも取り組んでいます。デイサービスで昔懐かしい唄を歌って差し上げるとおじいちゃん、おばあちゃんは喜んでくれます。未来のある子どもたちの生の懐かしい歌を聴くと五感に触れるものがあるのでしょう。感動が伝わってきます。今後はこうしたアナログの感動を大切にしながらICT化による保育園の見える化や業務の効率化、保護者とのコミュニケーション強化などに取り組んでいきたいと思っています。

次回は

社会福祉法人昭徳会
名古屋養育院・子ども家庭支援センターさくら
施設長 佐藤 忠彦さんへバトンタッチ



椅子に座って

ながら体操

仕事や家事の合間に、「椅子に座りながら」できる体操です。

第22回 口周りと首筋の引き締め

下を向くことの多いデスクワークでたるみがちな顔と首をすっきりさせます。

- 1 椅子に座って背筋を伸ばし、正面を向きます。



- 2 口をできるだけ横に広げて「いー」。上下の歯が見えるように。



- 3 次に口をすぼめて「うー」。「いー」と「うー」を5回繰り返します。



- 4 上を向いて「いー」「うー」を5回。首筋の筋肉が伸びていることを意識します。



旬ボラを行く!

本号のテーマ 文化祭を新しい気づきの場に！

〈インタビュアー：旅する食いしん坊 YM〉

文化祭のクラス展示で、“視覚障がいのある方たちの日常生活を、楽しい仕掛けの中で体験する”企画を考えた、愛知県立千種高校2年6組の小笠原莉子さん・中野橙花さんに取材させていただきました。

●このテーマを決めたのはどんな経緯からだったのでしょうか？

千種高校のクラス展示は、テーマに必ず“学び”を結びつけることが特色となっています。それに加えて私たちは、日常生活を送る中で普段考えないことを、来場者が自らの体験をもとに学べることを意識して企画内容を検討しました。この展示を実施したことで、まちで見かける視覚に障がいのある人たちについて改めて考える機会となり、自分たちも障がいの捉え方等をアップデートすることができたと思います。

●実際の展示内容について教えてください

2つのコーナーを作りました。1つは視覚障がいのある方が地下鉄を利用する際の一連の動作体験、もう1つはスーパーで買い物をする時の体験です。いずれも参加者にゴーグルを付けてもらい、視覚の不自由さを体験しながら切符を買ったり、改札を通ったり、品物を選んだりしていただきました。



2年6組のみなさん

●来場者の反応はいかがでしたか？

私たちの展示は、『Eyes MISSION × DARK SEE WITH』というタイトルです。実は来場者へ視覚障がい体験ということは事前に伝えず、地下鉄の動作体験は、ゴーグルで犯人の持つ特殊技術から目を守りながら、爆弾が仕掛けられた部屋から鍵（切符）を見つけて出口（乗車ドア）から脱出、スーパーでの買い物は、眩しすぎて保護眼鏡が必要な星に不時着し、宇宙船の修理部品（スーパーの品物）を探す、というミッションを各々2分以内にクリアする、と説明して体験してもらいました。ゴーグルを外した来場者の中には、事前説明と異なる景色に気づいて『こういうことだったのか!』と、驚きの声を上げる人もいて、準備した手応えを感じることができました。視覚障がい体験と事前に伝えなかったことで、先入観がない視覚ゼロのリアルな感覚を体験できたとゴーグルを外した時に言っていた方もいて、来場者のみなさんには楽しむだけでなく、新たな学びを手に入れて会場を後にしていただけたと思います。

●とても大がかりな会場設営で驚きました。準備が大変だったのでは？

9月の実施に向け、6月から夏休みを含め約3か月かけてモノとコトの準備を進めました。地下鉄の車両等はみんなでポスター用紙にペンキを塗って作成し、社会福祉協議会に依頼して視覚障がい者の方が利用する本物の白杖を借りたり、展示内容を当事者の思いに沿ったものにするため、当事者とお話する機会を設けてもらいました。更に、東京の「ダイアログ・ダイバシティミュージアム」にも足を運んで勉強しました。



文化祭当日の様子

●今後、視覚障がいをお持ちかもしれないという方を見かけたら、どんなふうにアプローチしたいですか？

障がい者である前に、1人の人間であるという視点を持って向き合いたいです。障がいそのものを見るだけではなく、同じ人としてその方に思いを寄せれば、どんなことを望んでいらっしゃるか推し量りやすくなるかもしれません。障がいという部分だけから一方的に“できなさそうなこと”を判断して動くのではなく、相手が望んでいることを汲み取ることから始めたいと思います。

インタビュー対象になったことに対する丁寧な謝意表明がありました。将来は国語教師を目指したいという小笠原さん、発展途上国の支援のお仕事がしたいという中野さん、前途洋々を絵に描いたようなお二人、10年後にもう一度お会いしたいなあと思いながら取材を終えました。

ボランティア・NPOウォッチング

団体の活動内容等を紹介するコーナーです。

ほっとはあとコーナー

地域住民、ボランティアや企業、学校関係者などへのボランティア情報発信を目的に、ほっとはあとクラブ（ボランティアの方々）と本会ボランティアセンターが協働編集（取材・執筆）しています。

NPO 法人ファミーユ

犬猫の保護をしている NPO 法人ファミーユ代表の熊崎純子さんにお話を伺いました。

●『NPO法人ファミーユ』はどんな活動をしていますか？

私たちは①行政への働きかけをする動物愛護活動、②講演会などの啓発活動、③里親探し・終生看取りの老犬老猫のシェルター、譲渡対象猫シェルター運営・TNR（猫を捕獲し、避妊手術を行い、元いた場所に帰す）などの保護譲渡活動の3つを主な活動としています。動物愛護センターや名古屋市 人とペットの共生サポートセンターなどと連携して活動しています。

10年以上活動していますが、根本にあるのはやっぱり、犬や猫が好きという気持ちです。昔から犬や猫が大好きで、大人になって犬を飼い始めてからはSNSでよくペットの投稿を見るのですが、ネットで犬猫のことを調べていると、殺処分されてしまう犬猫がたくさんいることに気づき、何とかしようとこの活動を始めました。

●犬猫を取り巻く社会の状況は？

私が活動を始めた頃は、千匹以上の犬猫が殺処分されていました。現在名古屋は、犬0匹・猫25匹まで減少しましたが、猫も殺処分が0匹になることを目標に活動しています。

実は犬と猫を比べると、猫の方が圧倒的に保護される数が多いんです。保護される猫は、産まれたばかりの自活不能猫・ケガをしている負傷猫・飼主から保護施設へ持ち込まれる猫の3パターンに大別されます。近年私が問題視しているのが、人間の都合で猫が振り回されてしまうことが多い、飼主が何らかの事情で飼えなくなって、保護施設へ持ち込まれる猫（犬も同様ですが）です。持ち込まれる事情は様々で、飼主の死や入院、施設入所などがあります。持ち込まれた犬や猫は、お世話が充分にされていない為、毛が伸びきっていたり、怖い思いをしたせいか人間に酷く怯えていたり、本当に酷い状態の子もいます。

●人とペットが共生していくためにはどうしたらいいですか？

犬や猫は、私たち人間の生活に物凄く左右されてしまいます。犬猫の問題は、人間が抱えている社会問題ととても密接しています。例えば、今の社会は人のつながりが薄く、頼れる家族や友人がいない孤独な方が増えているので、寂しさを埋めるためにペットを飼う高齢の方が増加しているように思います。保護した犬猫1匹1匹の背景やストーリーを見ると、本当に様々です。ペットを飼いたいと思う方はペットが寿命を全うするまでお世話が出来るかどうかよく考えて欲しいと思います。

●読者のみなさんへメッセージをください

ファミーユの活動はたくさんのボランティアさんに支えられているので、犬猫が好きな方は一緒に活動しましょう！犬猫の世話となるとハードルが高いと感じる方もいらっしゃると思いますが、啓発動画の作成やチャリティーグッズの裁縫、イベントのお手伝いなど色々なボランティアを募集しているので、気軽に自分ができそうなものへご参加ください。また、名古屋はふるさと納税で犬猫保護のための寄付があり、ボランティア団体はその寄付でフードやシートの支援を受けています。

ボランティア以外の支援もぜひお願いします！

また、里親募集の譲渡会を開催したり、保護猫カフェを運営したりしているので、関心のある方は足を運んでください。様々な背景を背負って保護される犬猫が新たな飼い主さんの元で家族の一員として幸せに暮らしているのを見ると、私も元気をもらえます。みなさんぜひご協力をお願いします！



シェルターの管理人さんたち



平和公園で老犬たちと遠足

【お問い合わせ】

Mail : info@npo-famille.org

※犬猫保護は行政からの依頼で行っています（個人からの相談は原則不可）。

きらっと ボランティア・NPOらいぶ

北保護区保護司会 鬼頭 美恵子さん

「一度、社会のルールから外れてしまった人々は社会に復帰し、社会の一員として活躍することができないのでしょうか？」少なくとも二度目の機会が与えられる社会を作っていきたいですね。今回は、名古屋市の北保護区保護司会の鬼頭会長に保護司の活動についてお話を伺いました。

〈インタビュー：シャオムー〉

●保護司とはどんな活動をしている人たちなの？

保護司は、法務大臣から委嘱された無給の非常勤国家公務員です。保護観察官と協力して罪を犯した人の立ち直りを支える活動をしています。保護観察の対象者は、「非行により家庭裁判所から保護観察処分を受けた少年たち」、「刑執行の猶予と合わせて保護観察付の言渡しを受けた成人」などです。「心理学や社会学などの専門知識を持った保護観察官」と「地域性・民間性を持った保護司」が協力して、保護観察対象者を支え、立ち直りや更生の手助けをするシステムになっています。

保護観察対象者は、自分の戻りたい場所で更生生活できることになっています。そのため、保護観察対象者が戻りたいと希望した地域で生活している保護司が、その方の保護観察担当になるのです。保護司は毎月2度、保護観察対象者と面接してレポートを提出することが義務付けられています。

●鬼頭さんが保護司になったきっかけは？大変なことは？

昔から PTA など地域活動に携わっていたのですが、そこで保護司をやっていた先輩にやってみないかと誘われたことがきっかけです。法的には誰でもなれることになっている保護司ですが、実際には時間と経済的な余裕、保護観察対象者と面接する場所が確保できないと務まらないボランティアだというのが実感です。守秘義務遵守のため保護観察対象者を家へ招く際には個別の部屋が必要になるわけです。最近はコミセンの個室を面接に使うことも多くなったそうですが、無断欠席されることもしばしば。

●保護司を続けてきて感じたことは？

保護観察対象者となる方々にも色々な背景があります。家庭環境の問題で非行に走った少年たち、生まれながらの性癖で罪を問われることとなった人々、薬物乱用者など。日々の生活の苦しさからなのか、現実逃避なのか、私にとって保護観察対象者は何かに依存している人たちに見えたりします。

また、「普通の人生・生活とは何？」「家庭とは何？」と深い問いが沸き起こることもあり、最近は「担当を持つと保護司は更生させようと必死になりがちなところをこらえて、無理せず距離感を持って接する方がよいのかな？」と思うことも。

●明るい社会を作るために私たちにもできることは？

やっぱり、保護観察対象者の担当を持つことは、会社勤めの方にはハードルが高いかもしれませんね。必然的に保護司は仕事が落ち着いた50代以上の方や自営業の方が担うことが多くなります。もちろん女性の保護司の方も少なくありません。ただ、保護司の活動は担当を持つことだけではありません。保護司会では、更生保護の活動として地域の祭りで啓発活動を行ったり、更生保護施設や協力雇用主との連携の活動もあります。ご興味のある方は最寄りの保護司会にお問い合わせください。



啓発活動の様子



鬼頭さん



更生ペンギンのホゴちゃん

【お問い合わせ】

北保護区保護司会 事務局

TEL : 052-917-6416 FAX : 052-914-5752

各区社協の
職員に聞いた

地区のオススメのボランティア

第12回

昭和区 ゆめ緑道ごきそ

代表の岩田さん（左）と
事務局長の蟹江さん（右）

昭和区で活動するボランティアグループ『ゆめ緑道ごきそ』代表の岩田さん、事務局長の蟹江さんにお話を伺いました。

●『ゆめ緑道ごきそ』とは？

JR 中央線東側から御器所通交差点まで東西に続く「ごきそ緑道」を、花と緑と笑顔があふれる魅力ある憩いの場にしようと、緑化・美化活動に取り組んでいます。主な活動は2つあり、1つは、「ごきそ緑道」の花壇で

川名公園で花苗育成をしている
メンバーのみなさん

花苗の植替えや除草、もう1つは、毎週木曜日の午前中に行う川名公園での植替え用花苗（「ごきそ緑道」の花壇に植える）育成です。そのほか、内外向け講習会の開催や区民まつり等のイベントで花苗（ポット入）無料配布も行っています。設立は平成16年で、昭和区役所地域域力推進室、昭和土木事務所、名古屋市みどりの協会の協力を得ながら活動しています。

●お2人がこの活動を始めたきっかけは？

蟹江さん：元々「ごきそ緑道」は、民間企業が植栽をしていました。しかし、ゴミや草が多くあまり良い景観ではなかったもので、「昭和区住みたくなるまちづくり研究会」で何とかしようと話し合っ、私たちの活動が始まりました。私は設立総会からのメンバー

「ゆめ緑道ごきそ」が
整備している花壇

川名公園で育てている花苗

で、最初は今のような役職には就いていなかったのですが、徐々に活動にのめり込んでいきました。

岩田さん：私は元々蟹江さんとは、民生委員の知り合いだったのですが、10年ほど前に活動中の蟹江さんとバッタリ出くわしたのが運のつき。軽い気持ちでメンバーになりました。けれども、作業中を通りすがりの方からお礼の言葉（ご苦労さま。ありがとう！）をもらえたりするとやっぱり嬉しいですし、道をよく尋ねられるので、それだけ地域の人たちに私たちの団体が認められていると思うと活動していて良かったなと感じます。

●ボランティアに興味がある方へメッセージをお願いします。

花が好き人や昭和区のまちを魅力ある場所にしたいと思っている方、私たちと一緒に活動しませんか？私たちの活動は、みんな各々が好きな時に好きな活動へ参加しているので、気軽に来てください！長い間活動を見てきて面白いと思っていることがあります。「ごきそ緑道」の花壇の世話は、活動時間も決まっておらず、1人でフラッと花壇に来て黙々と作業をすることが多いので、個人単位で作業することが得意な方がよく参加するんです。反対に川名公園での花苗育成は、みんなで連携して作業をするので、誰かとふれあいながら作業することが好きな方が参加されるような感じがします。みなさんご自分に向いている活動や参加の仕方があると思うので、無理なく楽しめる活動へぜひお越しください！

【お問い合わせ】

TEL : 052-735-3822

E-mail : iwata-hideaki@it-net.co.jp

※昭和区役所 HP に「ゆめ緑道ごきそだより」を掲載しているのでそちらもご覧ください

ほっとはあとクラブメンバーのつぶやき

みなさんはじめまして。私は中学校で教員をしています。中学生がボランティア活動をもっと身近に感じられるような授業がしたい、と考えていた時に、この取材ボランティア（ほっとはあとクラブ）の募集を知りました。私はボランティア活動の経験がなく、生徒に勧める前にまずは自分からだ！と経験値ゼロで応募しました。先日、社会福祉協議会の担当者さんのおかげで初めて取材に参加し、活動についていきいきと語られるボランティアさん（『ゆめ緑道ごきそ』の岩田さん蟹江さん）とお会いできました。ボランティア活動を生活の一部として捉え、地域と自分のために楽しんで活動に取り組まれる姿はとても素敵でした。「自分なんて」と感じることの多い中学生。ボランティア活動に関わることで「自分だって、役に立っているんだ」と、あのボランティアさん達のように希望にあふれた気持ちを持つきっかけにしてほしいと思います。〈ペンネーム ねこめい〉

からだに優しい いきいきレシピ

魚介のうま味を卵の衣に閉じ込めて

カキとタラのピカタ

ピカタは肉や魚に小麦粉をまぶし、溶き卵をからめて焼いた料理。今回は冬が旬のカキとタラを使いました。カキはミネラルやビタミン類が豊富で、疲労回復や生活習慣病の予防に。タラは高タンパク、低脂肪で淡泊な味わいが魅力です。塩コショウを控えめにし、お好みでレモン汁やケチャップをかけても。

材料(2人分)

- カキ 10個
- タラ 2切れ
- 塩コショウ 適量
- 小麦粉 適量
- 卵 1個
- 粉チーズ 大さじ1
- 油 適量
- ベビーリーフ 1袋
- ミニトマト 4個

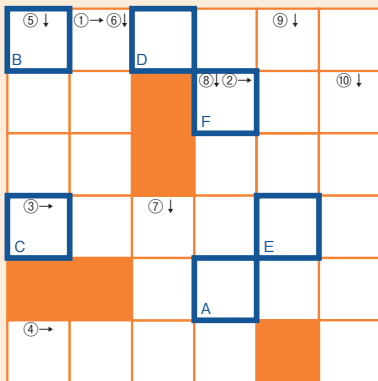


- 1 カキは塩水でふり洗いをしてペーパータオルで水気を拭く。タラは一口大のそぎ切りにする。塩コショウをして、小麦粉を薄くまぶしておく。
- 2 ミニトマトは縦半分に切る。
- 3 卵を溶き、粉チーズを混ぜて衣を作る。
- 4 フライパンに油を熱し、①を③にくぐらせて焼く。
- 5 両面が焼けたら、皿に盛って野菜を添える。

プレゼントつきクイズ



クロスワードを解いて、色枠に入った文字をA～Fの順に並べると、何という言葉になるでしょう。



ヨコのカギ (小文字も大文字とします)

- ① p6で紹介。○○○○○を新しい気持ちの場に！
- ② 素材が金の貨幣
- ③ p2～3の特集のサブタイトル。
○○○○○による合理的配慮の義務化
- ④ ヨーロッパとアメリカ

タテのカギ

- ⑤ ○○○○二鷹三茄子
- ⑥ 今期の朝ドラのタイトル
- ⑦ 〴〵かあさんが○○○をして手袋あんでくれた
- ⑧ p4で紹介。○○○○○型サロンひなたぼっこ
- ⑨ 会合などに自発的に出ている人
- ⑩ 「竹取物語」のヒロイン

【応募要項】

郵便はがきに①問題の答え、②住所、③氏名、④「ふれあい名古屋」本号で興味のあった記事と理由、本紙に対するご意見を書いて下記までお送りください。
締切は2024年1月31日必着。
〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17-1
名古屋市社会福祉協議会 「ふれあい名古屋」係

【正解発表】

2024年4月号誌上にて発表。正解者の中から抽選で10名様に名古屋市総合社会福祉会館にて展示・販売中の授産施設製品の中から500円相当の品を差し上げます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。
個人情報について
応募いただいた個人情報は賞品の発送および本紙の企画以外に利用したり、第三者には提供しません。

前回の答え

スポーツの日



社協からのお知らせ

鯉城学園 入学生募集！

「高齢者の生きがいがつくりと、地域活動の核となる人材の養成」を目的として設立された鯉城学園では、令和6年4月入学生を募集します！

鯉城学園には、幅広い知識を身に付けていただく「共通講座」とICTなど暮らしに係ることや健康と福祉、美術、歴史と文化など自分の関心のあることを学ぶことができる8種類の「専攻」があります。その他にも、仲間とともに活動する学生会やクラブ活動などもあり、充実した学園ライフを過ごすことができます。

各専攻の募集人数などの詳細は、区役所・支所、区社会福祉協議会、生涯学習センター、図書館などで配布される令和6年度入学案内をご覧ください。また、入学案内の送付をご希望の方は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

なお、令和6年度予算の状況によっては、内容が変更になる場合があります。

○対象 名古屋市内に住所を有する60歳以上（令和6年4月1日現在）で、地域活動に参加する意欲のある方（ただし、本学園を過去2回卒業した方は除く）

○出願期間 令和6年1月11日（木）～令和6年2月9日（金）

お問い合わせ 名古屋市鯉城学園 TEL：052-222-7521



学園ライフの風景

住み慣れたまちで自分らしく暮らす 若年性認知症講演会

診察だけではなく心のケアに取り組んでいる松本医師の講演と、名古屋市若年性認知症本人・家族交流会「あゆみの会」に参加する本人や家族の話を通して、診断後も住み慣れたまちで自分らしく暮らすことへの理解を深める講演会を開催します。（参加費無料）

○日時 令和6年2月18日（日） 13：30～16：00（受付開始13：00）

○会場 鯉城ホール（中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ5階）伏見駅南へ徒歩7分

○定員 500名（申込不要）※満席の場合、お断りすることがあります

○内容 第1部 講演「33年間に会った若年性認知症の本人・家族との思い出」
講師 松本一生活（松本診療所ものわすれクリニック理事長・院長）

第2部 シンポジウム「住み慣れたまちで私も家族も自分らしく生きる～「あゆみの会」がつなげる希望～



お問い合わせ 名古屋市認知症相談支援センター 〒466-0027 昭和区阿由知通3-19 昭和区役所6階
TEL：052-734-7079 FAX：052-734-7199 メール：n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp

成年後見あんしんセンター 市民後見シンポジウム

長谷川式認知症スケールを考案し、晩年は自身も認知症になったと公表、当事者として認知症について発信されてきた故 長谷川和夫氏の娘である南高まり氏に、共に暮らす日々の中で学んだこととお話いただきます。

○日時 令和6年3月2日（土） 13：30～15：30

○会場 鯉城ホール
（中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ5階）

○定員 600名

○内容 第1部
講演「成年後見制度・市民後見人について」
講師 市民後見人バンク登録者、
成年後見あんしんセンター

第2部
講演「自分の意志で生きたい～認知症専門医の父・長谷川和夫が残したものの～」

講師 南高まり氏（精神保健福祉士）

○申込み 令和6年2月16日（金）締切
下記二次元コードより申し込みください。定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。



参加費無料



お問い合わせ 成年後見あんしんセンター
TEL：052-856-3939
FAX：052-919-7585

共生社会の実現について一緒に 考えてみませんか（市民講演会）

東京パラリンピック開会式にも出演し、世界を魅了し続ける「義足のダンサー、大前光市さん」から、経験談とパフォーマンスを披露いただきます。

○日程 令和6年3月2日（土） 13：30～16：00

○会場 中区役所ホール

○内容 第1部
トーク&パフォーマンス
「誰にでも輝ける場所がある」
講師 大前 光市さん（義足のプロダンサー）

第2部
トークセッション
「共生社会の実現について考えよう！」

○申込み 令和6年2月13日（火）必着
（お一人様1回限り、3名まで）

・下記の二次元コードまたはハガキから。
・ハガキの場合は、申込者の氏名・郵便番号・住所・電話番号・必要な配慮、同伴者の氏名・必要な配慮を明記のうえ、下記へ郵送。



大前光市さん

参加費無料
要申込
抽選で450名



お問い合わせ 名古屋市障害者差別相談センター
〒462-8558
名古屋市北区清水4-17-1
TEL：052-856-8181
FAX：052-919-7585

ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介

ご寄付ありがとうございました

令和5年9月1日～令和5年11月30日受付分（敬称略、順不同）

福祉基金への寄付

フクシマガリレイ株式会社中部支社 /
つながり・支え合おう 地域福祉のすゝめ（募金箱）/ 佐藤 義廣 /
一般社団法人中部シニア活性化機構 / 中西電機工業株式会社 /
房田 泰治 / なごやかスタッフのつどい（募金箱）/ 小椋 雄一 /
名古屋市社会福祉協議会職員ワンコイン運動 /
令和5年度名古屋市公立保育園退職園長 / 匿名10件

市社会福祉協議会への寄付

フクシマガリレイ株式会社中部支社 /
一般社団法人アラウンドビューティークラブ東海支部 /
ロジスティード株式会社グループ / 匿名6件

市社協サポーター（賛助会員）のご紹介

令和4年度・令和5年度会員（令和5年11月30日現在）（敬称略、順不同）

仁木 雅子 / 中央法規出版株式会社岐阜営業所 /
小池 博美 / 渡辺 賢次 / 株式会社マルワ / 鷺見 修 /
木村 剛 / 株式会社せがわ住機 / タック株式会社 / 富田 哲生 /
三谷 洋一 / 北村 泰幸 / 株式会社サンエネック / 上村 成良 /
永井 瑛資 / K のキンパ / 越俣 加絵 / 水谷 巍 /
東洋羽毛東海販売株式会社 / 株式会社ウイングス /
石田 栄美子 / 立松 博 / 株式会社ラングローバル /
船木 陽子 / 柏 大輔 / 佐藤 良喜 / 鳳凰 敦 /
カシワギ電気株式会社 / 匿名5件

ご寄託ありがとうございました

使用済切手・書き損じはがき・ベルマーク等（令和5年9月1日～令和5年11月30日受付分） ※敬称略

薦井株式会社 / 天白まちづくりサポータークラブ / 今津貴子 / 織戸優光 / 名古屋市信用保証協会 / 渡辺正弘 /
社会福祉法人共育ちの会 / 特定非営利活動法人名古屋おやこセンター / 田口豊弥人（豊寿会）/ 北鯨城会 /
中村工業株式会社 / つくし会 斉藤かね子 / 昭和区手話サークルてむすび / 北区消費者クラブ / 高橋孝次 /
株式会社システムケイ / 愛知県立松蔭高等学校 / 上田順子 / 子育てピアサポートグループのどか（ゆらいぐ名古屋） /
川井孝司 / どんとクイズ教育研究所 / トレジャーハンター お宝発見隊 / 瑞穂鯨城会 /
北・西・昭和・瑞穂・南・守山・緑・名東区社会福祉協議会受付分 / 匿名16件

ご寄託いただいた使用済切手等は、次の団体に送付しました。

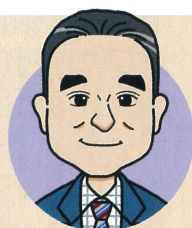
団体名	活用方法
ベルマーク教育助成財団	教育環境整備への助成
NPO 法人誕生日ありがとう運動本部	知的ハンディキャップ問題の啓発

※使用済切手の仕分け整理は、「ポストの会」と「一なごや北一男ディクラブ」の皆様にご協力いただきました。

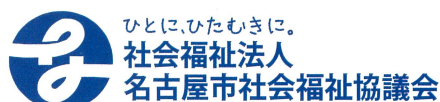
※使用済切手・書き損じはがき・ベルマークなどの寄付希望がありましたら、名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンターまでお届けください。お届けの際は、本広報誌へのお名前掲載の可否及び郵送希望の有無をお知らせください。

じむきよくちょうのつばやき

● 神奈川県座間市役所が取組む「断らない相談支援」を取材したドキュメンタリー番組を見ました。行政自らが民間団体にも働きかけ、「チーム座間」として支援に取り組んでいることや、何よりも「断らない」と窓口に大きく看板を掲げ、市民の様々な困りごとを積極的に引き受けようとする、その覚悟に驚かされました。ともすれば守備範囲を超えることに慎重になりがちな行政の姿勢を変えたのは、民間出身の担当者の行動力があったようです。本市で4月から全区に拡大する重層的支援体制整備事業は、全ての区で社協が受託団体として関わることになりましたが、座間市の「覚悟」には、我々も行政も見習うべきことが多いと感じました。



名古屋市社会福祉協議会事務局長 柄澤 克彦



〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17番1号 名古屋市総合社会福祉会館内
TEL : 052-911-3192 FAX : 052-913-8553
ホームページ : <https://www.nagoya-shakyo.jp/>
E-mail : nagoyaVC@nagoya-shakyo.or.jp

※この広報紙は福祉基金を活用して作成しています。
※この広報紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。
※市内社会福祉施設、民生委員・児童委員、大学などへの配布及び公共施設に配架しています。
広報紙「ふれあい名古屋 No.143」 発行日：令和6年1月1日
発行部数：12,000部

